



商店街 × 現代アート「空の光」 鈴木泰人

2018 年 8 月 4 日 (土) ・ 5 日 (日) 17:00 ~ 20:30 旧松浦スポーツ店

主催：小田原市文化政策課 協力：小田原まちなか市場実行委員会・ほっとファイブタウン



おだわら城町アートプロジェクト
商店街 × 現代アート「空の光」

空の光（カラノヒカリ）

キャンバスにアクリルインク
松浦スポーツ店舗の備え付け屋外灯
自然光 照明 調光プログラム
家主の古道具・家具



鈴木 泰人 Yasuhito Suzuki



1979 年 神奈川県出身、在住。2011 年多摩美術大学 大学院美術研究科 油画専攻 修士課程 修了。光や場所を題材にして、インスタレーションやタブロー、プロジェクトアート、パフォーマンスアートなど、多様な表現方法により発表をしている。

一貫したテーマである「距離を測る」作品は、地域や企業と取り組むアートプロジェクトで数多く採用され、作品制作のプロセスにおける会話から物語づくりを、多分野に応用する試みも同時に行っている。2017 年現代美術と建築に特化した art unit OBI を結成し、合同会社 OBI を設立。共同代表をつとめる。

— 展示略歴 —

- 2018 水と土の芸術祭 市民プロジェクト 新潟県
Slovenia ART CIRCLE 2018 滞在制作 Slovenia
第4回西湘地区アーティスト・イン・レジデンス 滞在制作 神奈川県
- 2017 光る知覚 - Touching the Light - 3331 ARTS chiyoda 東京都
- 2016 真鶴まちな一丸 神奈川県
フルマチ アーティスト・イン・レジデンス 新潟県

明滅のリズム 小田原を照らす空の光

城下町として全国的に知られる小田原。その商店街を活用して現代美術を展開することは、小田原という場所で新しく創造される新しい美術の価値に触れようと市外から訪れる鑑賞者が、現代美術を通して市民と積極的に交流する機会と言える。今回は、光の性質を研究、多角的に光の可能性を追求し現代アートとして作品化する鈴木泰人くんに製作を依頼した。会場は、銀座通り南街区の旧松浦スポーツ店だ。美術作家はホワイトキューブという白い壁をもつ美術の展示施設で作品を展示することが一般的だが、今回のように、店舗の通りに面する壁が一面ガラス張りという会場を使うことは、よい意味で痺れる体験となろう。それを逆手にとって楽しみながら、質の高い作品を創造してくれると確信し、鈴木くんを選んだというワケだ。家主さん宅の倉庫にしまってあった釜、工具、靴、玩具などの日用品などを巧みに会場内に並べ、そこに周到に計算された光をあてる。作家が創造したこの光は、ほかならぬ「小田原」にしかない光である。たった2日間という短い期間にしか享受できない光。しかし、この光はいつまでも「小田原の光」として作品を体感した人の記憶の中に留まることだろう。

キュレーター 中野 仁詞

中野 仁詞 Hitoshi Nakano



神奈川県出身、在住。

公益財団法人神奈川芸術文化財団学芸員。

第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展

(2015年) 日本館／ヨコハマトリエンナーレ 2017

キュレーター。芸術資源マネジメント研究所研究員。

東海大学 / 女子美術大学非常勤講師。

神奈川県民ホールギャラリーやKAAT 神奈川芸術劇場で企画した主な展覧会に、塩田千春展「沈黙から」(2007年)、「日常／場違い」展(2009年)、「日常／ワケあり」展(2011年)、さわひらき展「Whiri」(2012年)、「日常／オフレコ」展(2014年)、塩田千春展「鍵のかかった部屋」(2016年)、「詩情の森 語りかたられる空間」(2017年)、他。

慶應義塾大学大学院美学美術史学専攻前期博士課程修了。

キュレーターアシスタント 結城 鷹 Yo Yuki